

Contents

- | | |
|--------------------------|--|
| 04 MESSAGE 代表取締役社長 石田 郁雄 | 22 一度は来てみて! 拠点の魅力自慢 |
| 06 デンカ10年の10大NEWS | 26 VOICE 2025年の私たちと、
一人ひとりが描くデンカの未来 |
| 10 知られざるデンカトリビア | 30 Denka TOPICS |
| 14 ありがとう黒姫山 | |
| 20 キャリア社員座談会 | |

The Denka Way

ReDiscover

Denka 110th

デンカの魅力再発見

The Denka Way

110周年記念号
2025 Vol.23

発行/デンカ株式会社 コーポレートコミュニケーション部
〒103-8338 東京都中央区日本橋室町2-1-1 日本橋三井タワー
発行責任者/山本 浩之 発行日/2025年5月1日



禁断新採用・転載

Denka

世界に誇れる、 化学を。

その仕事は、未来に新しい価値を提案しているか。

人と地球の明日を幸せにしているか。

1915年の創立以来、私たちが追求してきたのは

ほかの誰にもできない、デンカならではの強みを生かして

社会を、世界を、よりよく変えていく挑戦です。

110年磨き上げた技術と、最新のテクノロジーを融合させ

化学の未知なる可能性を切りひらくこと。

未来のニーズを予測し、まだ見ぬ豊かさを創造すること。

環境・エネルギー分野での先端素材の開発や

ライフサイエンス領域のさらなる推進など

私たちは多様化する新たな課題にこたえ

社員一人ひとりがストーリーを描き

人に、社会に、世界に貢献し続けます。

Denka

デンカ株式会社

東京都中央区日本橋室町2-1-1 日本橋三井タワー

www.denka.co.jp

110 years

新しい夢を、 110年の化学で。

デンカが1915年の創立以来、追求してきたのは
本質的な価値を大切にしながら
未来のニーズを予測し、新しい豊かさを創造すること。

110年築き上げた伝統を大切にしながら
社員一人ひとりが、化学の未知なる可能性に
挑み続けています。

本号では、創立110周年記念号として
これまでの歩みと未来にフォーカス。
多くの仲間たちが語る、デンカの知られざる魅力や
新たな挑戦を鮮やかに描き出します。





Denka



110年のその先も。 化学の力で、世界を豊かに

代表取締役社長 **いしだ いくお**
石田 郁雄

創業当時から変わらない想い

幾多の難局を乗り越え、デンカは2025年5月に創立110周年を迎えました。これはひとえに、お客様をはじめとするステークホルダーの皆様の厚いご支援と、これまでデンカを支えてくださった従業員の皆さんの奮闘の賜物であり、心より感謝申し上げます。デンカは1914年に勃発した第一次世界大戦で、輸入が難しくなった石灰窒素の国内生産を行うことを目的とし、1915年に事業を立ち上げました。創業当時から「ものづくりを通して社会に貢献すること」をモットーに果敢に新しい事業に挑戦し、ここまで成長を続けてきました。

110年前の設立趣意書をひもといてみると「各地に工場を建設して大規模な製造を行い、年々激増する需要を満たして世界に進出する」ことが記載されています。また、1967年に作られた社歌「世界のデンカ」には、タイトルにもある“世界”というワードが数多く入っています。このような創立の精神は、現在に至るまで色濃く引き継がれています。そして、次の目標である200周年を目指して、デンカは新たな境地へと進んでいきます。

予測できない時代を、 イノベーションで切り開く

ここ10年の間に、世界は驚くべき速さで変化しています。またその変化も、地政学的リスクや気候変動などのファクターが絡み合い、より予測しづらいものになっています。そのような中で、どうすればデンカは化学の可能性を最大化し、世界に貢献できるのでしょうか。今年4月から代表取締役に就任した私のミッションは、この変化の激しい時代だからこそ、イノベーションを加速させ、業績を回復させるとともに持続的な成長を実現するための施策を進めていくことです。

鍵を握るのは、私たちの研究開発の豊かな源泉から生み出されてきたイノベティブな製品群です。アセチレンブラックや球状アルミナ、クロロブレンゴムなど、デンカには世界ナンバーワンのシェアを誇る製品が数多く存在します。また、過去に実を結ばなかったものの、新たな需要の高まりによって花開いた製品「スネクトン®」も今年上市しました。これらは、半導体用途をはじめ、今日の社会に不可欠な製品として世界中で採用されています。

経営計画「Mission 2030」では、デンカのすべての事業をスペシャルティ、メガトレンド、サステナビリティの3要素をそなえた「3つ星事業」にすることを目指しています。「3つ星事業」への転換が見込めない事業については、売却・撤退を含め、ポートフォリオ変革を進めていきます。そして、私たちの強みを活かせる、誰よりも上手に取り組める事業に経営資源を集中することで、会社の成長を加速させていきます。

これらを進めていく上で、誰かの指示を待ったり、環境の変化に対して受け身になったりするようであれば、変化の激しい時代を生き抜くことはできません。自分のやっていることが「Mission 2030」の達成に向けてどうつながるのか、そのために何が必要なのか。変化を察知し、決定的な瞬間を逃さずに機動的に動き、柔軟に対応する力が求められています。

揺るぎない使命を胸に

経営計画の最終年である2030年は、もう目の前まで来ています。経営計画を策定した当時とはまた違う未来像が予想され、当社が掲げた目標や方針についても情勢を考慮して、より適した形へと見直しを図ります。「Mission 2030」ではこれまで、ICT & EnergyやHealthcareを中心に設備投資を行ってきました。潜在ニーズに応える十分な生産能力は確保されており、2030年にはデンカ史上最高の利益計上を牽引してくれるものと期待しています。

それに加えて、これからの5年間で少なくとも10の新事業を立ち上げ、2030年以降の社会ニーズに応えていきます。これらの新事業は、結果的に社会のためになるのか、十分な利益が得られるのかといった出口の姿をイメージして事業化に取り組んでいきます。新事業の推進は、新事業開発部門にとどまらず、社内全体で意識を持って取り組んでいきます。年に1回実施している従業員を対象としたビジネスアイデアコンテスト「Denka Innovation Day」もその潮流を加速してくれるはずです。

社会を大きく変えるような画期的な製品は、ここ数年、化学業界全体を見てもなかなか生まれていません。一方で、私たちを取り巻く環境は厳しさを増し、脱炭素に向けた技術開発など、新たなニーズも増えています。

しかし、どのような状況においても、私たちの「化学の力で社会をよりよくする」という使命は変わりません。110年間で積み上げてきた技術と新たな知見を組み合わせ、これからも人々の暮らしに貢献する製品を提供し続けていきます。私たちデンカの挑戦に、ご期待ください。

社長のヨコガオ

今年4月に就任した石田新社長。
その素顔に迫ります。

石田社長 in 1993 「拡販命」だった営業マン時代

30代のころ、大阪支店でクロロブレンゴムの営業を担当していました。当時の私は、拡販につながるネタがあれば猪突猛進で突っ込むタイプ。あるとき、新幹線の線路に敷き詰めるバラスト(※)の表面に水性のクロロブレンゴムを塗布して安全性を高められないかと思い、他部署を巻き込み現場での立ち合いに明け暮れました。結果的に採用に至らなかったのですが、「思いついたら、まずやってみる」という姿勢は、今でも大切にしています。

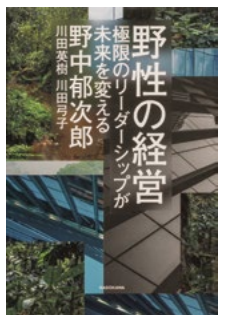


後列左から3人目が石田社長

※バラスト…鉄道の線路に敷かれる砕石や砂利で、枕木を支える重要な役割を担う。1993年4月に「のぞみ304号」が岐阜羽島駅通過時バラストを跳ね上げ、上りホームにいた乗客に当たり、怪我を負わせた事故が問題視されていた。

これからのデンカに 必要だと思うこと 「野性」の感覚

野性というのは、人が生き抜くために本来持っている本能的な力のこと。私が最近読んだ「野性の経営 極限のリーダーシップが未来を変える(著 野中郁次郎、川田英樹、川田弓子)」という本では、「予想のつかない困難の連続の中では、数字やデータだけを追うのではなく、自分の感覚や感情を研ぎ澄まして考え、本質を見抜く力が必要」だと記されています。私の大切にしている考えと共通する部分が多く、当社にも当てはまる部分があるのではないかと感じました。



デンカ10年の 10大 NEWS

100周年を迎えた2015年からこれまでの10年間に起きた重大ニュースや、会社にとっての重要なマイルストーンとなる出来事を10件ピックアップしました。

- シンガポールにライフサイエンス研究開発拠点「DLIR」を開設



- 大牟田工場で新総合事務所「Omura Innovation Hub」が竣工



- 新型コロナウイルス抗原迅速診断キット「クイックナビ™ -COVID19 Ag」を販売開始

PICK UP 2

- 青海工場で高効率ガスタービン発電機が竣工

- シンガポール事業40周年

- 大牟田工場でのカーバイド生産停止

- インフルエンザワクチン原液製造新棟が稼働

PICK UP 4

- 新姫川第六発電所の営業運転を開始



- シンガポールでxEV・5G 向け球状アルミナの新製造設備が本格稼働

PICK UP 5

- 千葉工場で高効率ガスタービン発電機が竣工



- セメント事業からの撤退とカーバイドチェーン再構築によるポートフォリオ変革を決定

- 低誘電有機絶縁樹脂「スネクトン®」を上市

PICK UP 10

2015

- 社名とコーポレートロゴマーク・スローガンを一新

PICK UP 1

2016

- 青海工場で新総合事務所「Omi Innovation Hub」が竣工



2017

- 新青海川発電所から送電を開始

PICK UP 3

2018

- シンガポール拠点で高機能透明樹脂（MS樹脂）の増産設備を竣工



2019

- 新型コロナウイルスとインフルエンザウイルスを同時に判定する抗原迅速診断キット「クイックナビ™ -Flu+COVID19 Ag」を販売開始

- バイオスティミュラント「レコルト™」を販売開始



2020

- 地域統括会社として電化（上海）管理有限公司を設立

2021

- 1億米ドル規模のCVCファンドを設立

PICK UP 6

2022

- 「健康経営優良法人 2023 ～ホワイト500～」に初認定

2023

- 新ビジョンと経営計画「Mission 2030」がスタート。コーポレートメッセージも刷新

PICK UP 7

2024

- アセチレンブラック製造販売事業を行う合併会社をタイに設立。生産プラント建設投資を決定

PICK UP 8

2025

- 行政と連携した“国内最大”のポリスチレンのケミカルリサイクルが稼働

PICK UP 9

1 社名とコーポレートロゴマーク・スローガンを一新

創立100周年を機に、「電気化学工業」から「デンカ」に社名を変更しました。従来から親しまれてきた「デンカ」に変更することで、国内外でのより一層の認知向上と、「電気化学」の枠を超えて、グローバルに展開する企業として成長することを目指したものです。併せて、コーポレートロゴマーク・スローガンも新たに策定しました。

Denka

Possibility
of
chemistry



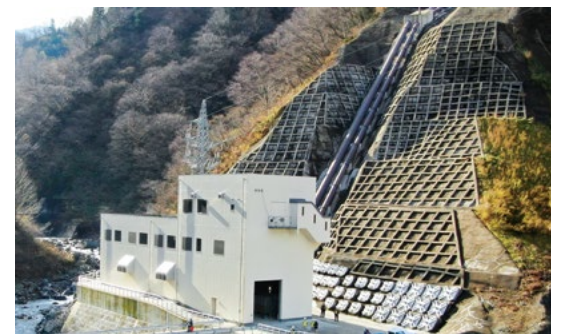
2 新型コロナウイルス抗原迅速診断キット「クイックナビ™-COVID19 Ag」を販売開始

新型コロナウイルスのパンデミックへの対策として、デンカが長年の感染症検査試薬の開発・製造で蓄積してきた技術とノウハウを活かし、抗原迅速診断キット「クイックナビ™ -COVID19 Ag」を開発。国内製造販売承認を取得し、五泉事業所で量産を開始、医療機関への提供をスタートしました。特別な検査機器が不要で、抗原の有無を診断でき、一般医療機関でも迅速かつ簡便な検査を可能にしました。

3 新青海川発電所から送電を開始

クリーンエネルギーの利用拡大と事業基盤の強化を目的に、新潟県糸魚川市内に新たな自家水力発電所として竣工した新青海川発電所。長期安定操業や台風・集中豪雨等の自然災害に耐えられるよう、最新の遠隔操作機能の導入や発電所設備の高強度化を図っている発電所です。現在、同発電所を含む姫川流域、青海川流域の自社水力発電所の最大出力は14.0 万kW(※)で、約18万世帯の消費電力をまかなっています。

※黒部川電力（北陸電力株式会社との共同保有）は、発電出力の50%を計上



4 インフルエンザワクチン原液製造新棟が稼働

国内におけるインフルエンザワクチンの主要メーカーとして、増加するインフルエンザワクチン予防接種の社会的ニーズに応えるため、五泉事業所に従来の原液製造設備の2倍の能力を持つ新棟を竣工。2022年シーズンから稼働を開始しました。生産能力の向上によって、より多くの方々にワクチンをお届けすることができるようになりました。



5 シンガポールで xEV・5G 向け球状アルミナの新製造設備が本格稼働



シンガポール連結子会社 Denka Advantech Pte. Ltd.(DAPL)のトアス工場で球状アルミナの新製造設備の本格稼働を開始しました。高熱伝導/放熱材料としてリチウムイオンバッテリーをはじめ、車載、通信など xEV・5G 通信関連のメガトレンド用途で広く使用されている球状アルミナ。新製造設備の本格稼働により、2018年度比の5倍の生産能力を実現。大牟田工場との2拠点生産体制でBCP対応も強化し、圧倒的なトップメーカーの座を揺るぎないものとなりました。

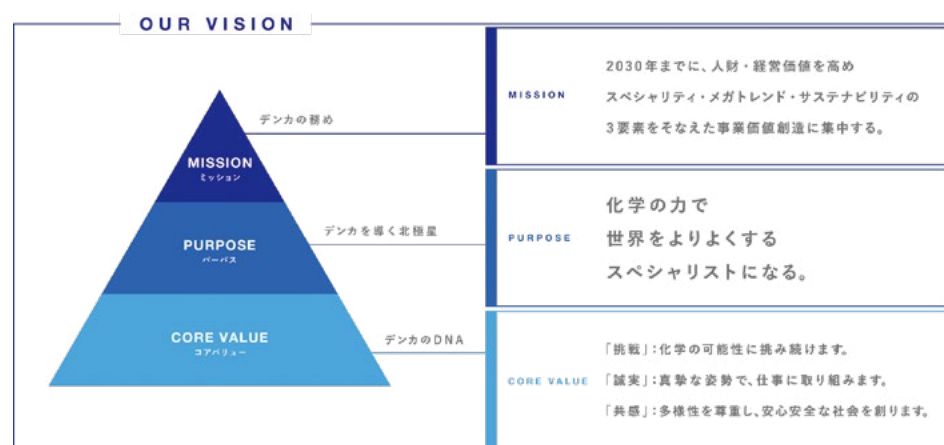
6 1億米ドル規模のCVCファンドを設立

新規事業の創出と新規技術の獲得を目的とした CVC(コーポレート・ベンチャー・キャピタル)ファンドを、米国・シリコンバレーを拠点に設立しました。ファンド規模は1億米ドル、運用期間は2023年から8年間で予定しています。最先端の技術、製品、ビジネスモデルを有するベンチャー企業への資金提供や事業提携を通じて、新規事業創出や新規技術獲得の加速を図ります。



7 新ビジョンと経営計画「Mission 2030」がスタート。コーポレートメッセージも刷新

ミッション、パーパス、コアバリューを軸とするデンカの新たなビジョン(未来像)を示し、2023~2030年度の8カ年を対象とする経営計画「Mission 2030」を策定しました。人財・経営価値を高め、スペシャリティ・メガトレンド・サステナビリティの3要素をそなえた事業 価値創造に集中するとともに、財務・非財務の双方に重点を置いた戦略を実行して「Mission 2030」の実現を目指します。併せてコーポレートメッセージを「世界に誇れる、化学を。」に刷新しました。



<https://www.denka.co.jp/vision/>

8 アセチレンブラック製造販売事業を行う合弁会社をタイに設立。生産プラント建設投資を決定

タイの SCG Chemicals Public Company Limited との共同出資による合弁会社を設立し、タイ・ラヨーンに年間約11,000tの製造能力を有するアセチレンブラックの生産プラント建設投資を決定しました。デンカのアセチレンブラックは、独自の熱分解合成技術により金属、硫黄等の不純物が極めて少ない純度の高さに加え、優れた導電性を有しています。xEVのリチウムイオンバッテリー、洋上風力発電の高圧送電線ケーブルなどの用途での需要の伸長が見込まれています。アセチレンブラック製造におけるデンカの4拠点目となる新プラントの稼働は2026年下期を予定しており、製品供給のさらなる安定を図ります。



10 低誘電有機絶縁樹脂「スネクトン®」を上市

スネクトン®は、次世代高速通信(Beyond5G、6G)において、電気信号の損失(伝送損失)を低減させるために素材に要求される電気特性(低誘電率、低誘電正接)を備えた低誘電有機絶縁樹脂です。各種高速通信機器の銅張積層板(CCL)向けでの販売のほか、完全硬化後も軟質性を有するという特性により、フレキシブル銅張積層板(FCCL)や各種層間絶縁材用途での採用を目指します。PC、スマートフォン、データセンター、携帯電話基地局、ウェアラブル端末、自動車など幅広い分野への展開が期待されています。



9 行政と連携した“国内最大”のポリスチレンのケミカルリサイクルが稼働

デンカと東洋スチレンは、使用済みポリスチレンのケミカルリサイクルプラントを千葉工場内に竣工しました。年間3,000tの処理能力を有する本施設の稼働により、ポリスチレンを化学的に分解し、化学原料(スチレンモノマー)の状態に戻したあと、再度重合することで、新品同等の品質と物性で用途の制限無く使用可能なリサイクルを実現します。





Denka Trivia 01 From IC

イノベーションセンターの 成長を見守る一本松

イノベーションセンター正門から中に進むと、一本の松が出迎えてくれます。この松は1968年に現在の上皇陛下が皇太子殿下の時代にご来所された際の記念植樹です。半世紀以上も研究所の歴史を見続けてきた、証人ならぬ“証木”です。

見た目も味も
鯛そっくり?



Denka Trivia 03 From 青海工場

養鰻事業に隠れた ティラピア養殖

世界で鯛の完全養殖が確立されていない頃、鯛に似た食感と食味のティラピア養殖が社内で検討され、事業化寸前までいっていたのだとか。その後、鯛の完全養殖が確立されて事業はなくなり、その名残でウナギの養殖(後に撤退)をしていたエリア内には、ティラピアが生息していました。



Denka Trivia 02 From Korea

Denka Koreaの オフィスからは世界遺産が見える？

Denka Koreaのオフィスからは、「朝鮮王陵」と呼ばれる朝鮮王国の王陵が望めます。朝鮮王陵は、世界的に見ても完全な状態を保っている数少ない王陵であることから、ユネスコ世界遺産に登録されています。緑あふれるつくりから、現在は市民の憩いの場として賑わっています。



夏場は緑が
きれいです

千葉工場が建設されて間もない1970年頃。千葉工場の周りは一面まっさらで何もなく、ゴビ砂漠ならぬ「ゴイ(五井)砂漠」と呼ばれていたらしい? プラントが立ち並ぶ現在の光景からは想像しにくいですね……。



Denka Trivia 05 From 千葉工場

千葉工場近辺は かつて「ゴイ砂漠」 と呼ばれていた!?

Denka Trivia 06 From 青海工場

石灰石の採掘場と セメント工場の近さは 日本一!



青海工場における石灰石の採掘場からセメント工場までの距離は、約500m。国内におけるセメント工場の石灰石の採掘場からセメント工場までの距離は数km~20kmが大半ですが、青海工場はなんとこの近さ。この立地の良さがセメント事業を開始した理由の一つであり、安定した生産体制の源となっていました。

知られざる

デンカトリビア

社員も知らない? デンカにまつわるトリビアを紹介。これを読めば、あなたもデンカ博士になれるかも?

十大新製品賞
受賞!



Denka Trivia 04 From 本社

デンカの特殊混和材は 太陽の塔に使われている

モルタルのひび割れに使用される「デンカCSA」は1970年に大阪で開催された日本万国博覧会(大阪万博)の「太陽の塔」の吹き付けに採用されました。なお、同製品は翌年には日刊工業新聞社の「十大新製品賞」も受賞しています。

Denka Trivia 07 From 大牟田工場

幻の塩湖 大牟田工場にあった



現在、新規プラントが建設され、来年度より本格操業の予定である工場北部。大牟田工場の操業開始から2020年11月まで製造していたカーバイドから、アセチレンを生成する際に出る消石灰の保管場所でした。消石灰は白いため、上空からの写真では塩湖に似ており、社外の方からは「三池塩湖」と呼ばれ、工場に問い合わせがくるほどでした。

プチトリビア!

ヨーロッパでの事業を 長年支える2人の社員

ドイツ・DCGに駐在する2人のベテラン社員。1人が22年、もう1人はなんと40年以上デンカに勤務しています! 誰よりも社内や取引先の慣例を理解しており、円滑に仕事が進められるように日々サポートをしてくださっています。



知られざる

デンカトリビア

Denka Trivia 08
From 五泉事業所

五泉事業所では
世界各地の鳥インフルエンザ
感染状況をモニタリングしている？

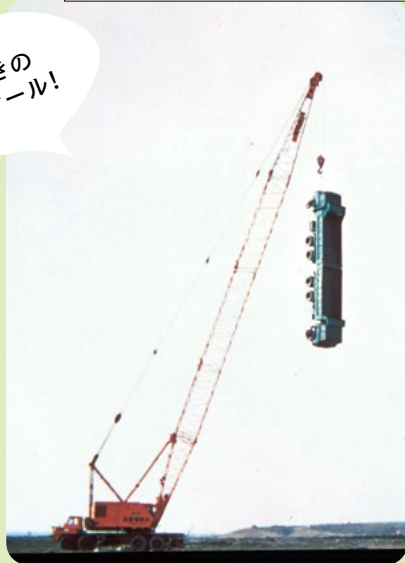


インフルエンザワクチンの原料となるウイルスは、有精卵にウイルスを接種し、それを増やすことで賄っています。製造過程に必要な有精卵を入手できるのは、専門の養鶏所のみ。ワクチンの製造を担う五泉事業所では、製品の安定供給のため、「ヒト」だけでなく「トリ」の流行状況についても、常に気を配っているのです。

Denka Trivia 10 From 本社

「ハードロック」のCMは
カンヌ国際映画祭の賞を
受賞したことがある

驚きの
スケール！



1970年代に放映された接着剤ハードロックのCMがカンヌ国際映画祭のテレビCM部門でグランプリを受賞。2台の大型トラックを接着して引き上げる映像のインパクトと実証スケールの大きさが評価されました。

食品容器
だけじゃない！



Denka Trivia 09 From 伊勢崎工場

飲料用ペットボトルを
製造していた伊勢崎工場

伊勢崎工場では、1988年から飲料用ペットボトルを食品包装事業の一つとして16年間製造し、主に炭酸飲料用のペットボトル約4億本を世に送り出しました。当社製のペットボトルは底面にAP(共同出資会社とのロゴ)の刻印があり、スーパーなどで底を見ながら購入する社員がいたのだとか。

Denka Trivia 11 From 大船工場

一部の社員のみが目撃!?
大船工場に生息する、
幻のカワセミ



青い羽が特徴で、宝石にも例えられる美しい野鳥である「カワセミ」。実は、大船工場の敷地内で生息が確認されているのです。しかし、場内でも一部の方しか目撃したことがないほど珍しいそうです。見つけた日には、何か良いことが起きるかも？

Denka Trivia 12
From 大牟田工場

新大牟田駅前の銅像の
正体は元デンカの役員？



明治後半から昭和初期まで日本の経済界の重鎮であった団琢磨。当社設立の発起人の一人であり、三池港の築港や炭鉱坑口の排水問題に取り組むなど、大牟田地区の化学産業の礎を築きました。2011年に九州新幹線鹿児島ルートが開通した際にその功績を称え銅像が建立されました。

デンカの工場が
名作に彩を
添えていた！



Denka Trivia 13 From 本社

デンカ発祥の地
北海カーバイド工場は、
宮沢賢治の詩に登場している？

「雨ニモマケズ」「銀河鉄道の夜」などが有名な宮沢賢治は、花巻農学校の教師だった1924年、修学旅行の引率で北海道・苫小牧を訪れた際に詩を残しています。その中の「パルプ工場の火照り」は、一説ではデンカ発祥の地・苫小牧工場(北海カーバイド工場)の炎によるものとされています。

プチトリビア！

30年以上同じビルに事務所を構える
DCU

アメリカ・デンカコーポレーションは1993年に法人化しました(駐在員事務所設立は1961年)。翌1994年現在の3番街780番地に移転して以来、30年以上にわたって同じビルにオフィスを構えています。その間、事業の成長に合わせて、同じビル内で2度移転し、オフィススペースを拡張・調整してきました。



Denka Trivia 14
From 青海工場

青海工場・有機第二部を
そっと見守る小便小僧



寄贈主は
「伝説の社員」の
奥様

青海工場内にある小便小僧は、デンカのクロロブレン事業の草創期、研究開発から企業化まで強力に推進された偉大なリーダー小林隆一さんの一周忌に、小林さんの奥様から寄贈していただいた像です。そこから長い間、有機第二部の活躍を見守り続けています。

プチトリビア！

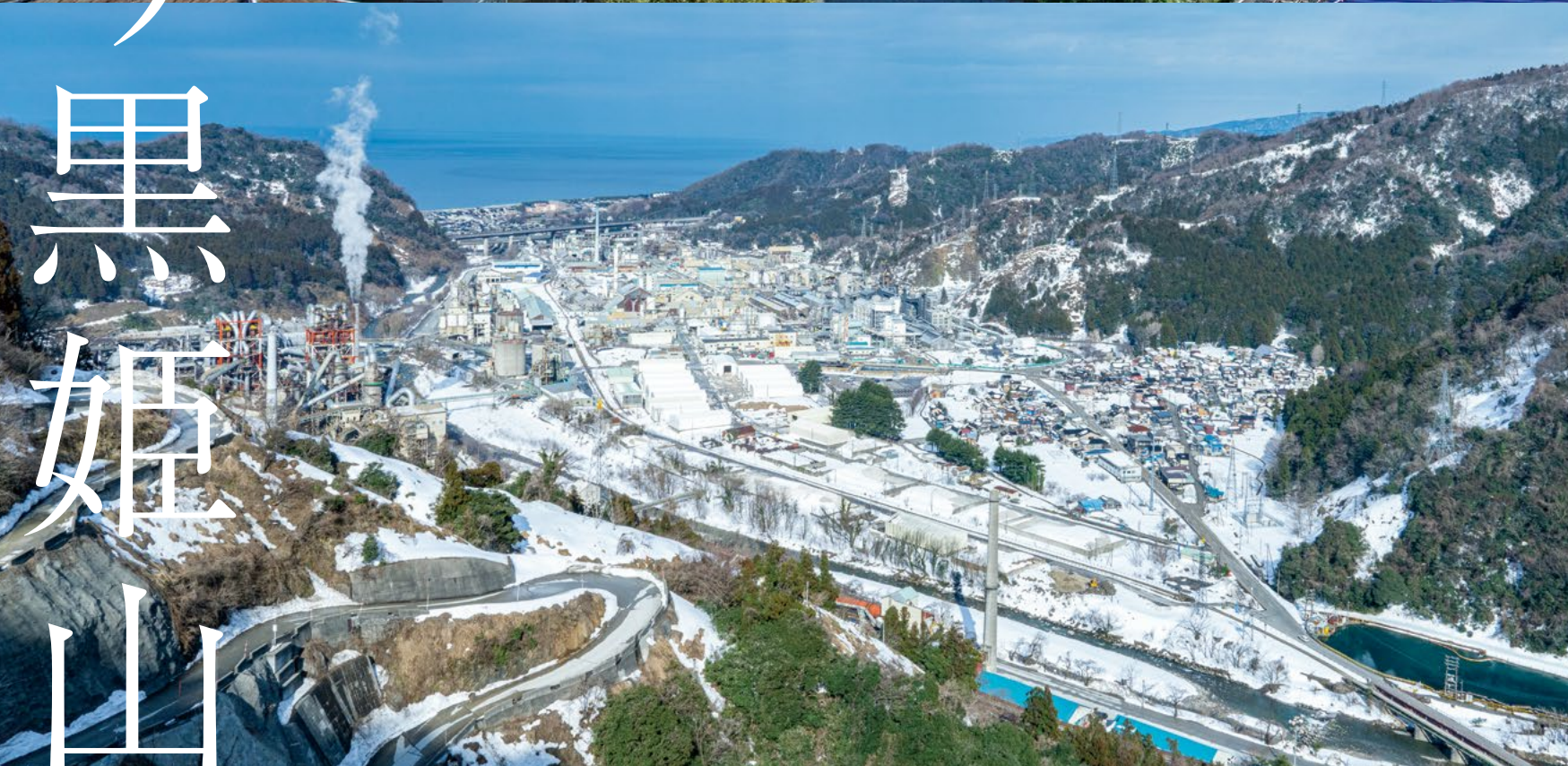
ベストドレッサー賞を決める社内イベントがあるらしい

多民族国家のマレーシアにオフィスを構えるDCSMでは、ハリラヤ(イスラム教の断食月明けのお祭り)、旧正月(主に中華系の新年)、ディパバリ(ヒンズー教の「光」の祭り)それぞれを祝う、従業員全員参加のイベントを行っています。それぞれの文化にちなんだ料理が振る舞われ、メンバーも民族衣装をまとい参加します。文化や歴史に関するクイズ、ベストドレッサー賞も恒例行事です。

ありがとう 黒姫山

お山と歩んで100年余、青海工場と黒姫山の軌跡

デンカは1921年に、現在の新潟県糸魚川市に青海工場を設立し、以来100年以上の長きにわたって隣接する黒姫山の豊富な石灰石を活用してカーバイドやカーバイドを原料とする化学肥料、石灰窒素の製造を進めてきました。さらに1954年からセメント事業に乗り出し、高度成長期の日本の発展を支えてきました。創立110周年を迎えた、青海工場と黒姫山の“今”を知るために現地を訪ねました。



山からの恵みをいただく



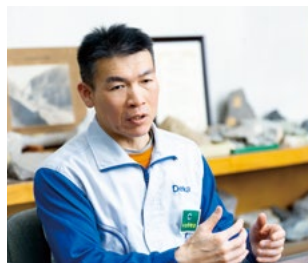
世界でも有数のヒスイの産地として知られる新潟県糸魚川市。ここは、かつて『古事記』や『出雲風土記』といった古代文献に登場する高志国(現在の福井県から新潟県)の姫、奴奈川(ぬなかわ)姫が統治していたと言われています。その影響から、糸魚川市内には奴奈川姫を祭る神社や、奴奈川姫にまつわる数多くの伝説が残されています。

糸魚川市の青海地区にそびえ立つ標高1,221.5mの黒姫山も、彼女と深い縁がある土地の一つ。大昔、この山の麓にある大鍾乳洞に暮らしていた奴奈川姫は、機(はた)を織っては洞穴から流れる川でその布をさらしたと伝えられています。その他にも、この山は数々の奴奈川姫伝説が残されていることから、彼女の別称「黒姫」から名前を取り、黒姫山と呼ばれるようになったと一説に言われています。以来、山そのものが神体化され、地域住民から崇められてきました。

黒姫山は地元民から祭られる神であるとともに、糸魚川市はもちろん、近代日本の産業興隆に貢献した「原石」でもあります。黒姫山は全山が石灰岩で、ここから採れる良質な石灰石は、カーバイドや石灰窒素の原料として大正時代から活用されてきました。そして、私たちデンカもこの山の恵みを受け、現在に至るまでセメントや、カーバイドから派生する肥料、特殊混和材、世界トップシェアを誇るクロロブレンダムなどを社会に提供してきました。



山に刻まれた 100年の歴史



川田部長

デンカ青海工場と黒姫山の関係は、およそ100年前までさかのぼります。当時のデンカはカーバイドと石灰窒素の製造を主としており、生産能力を拡大するために新たな拠点を探していました。カーバイドは石灰石を電気炉で焼成して製造するため、原料である石灰石と、多くの電力を必要とします。そこで豊富な石灰石と水資源が確保できる黒姫山は、2つの条件を満たす、

まさに理想の土地だったのです。デンカは1921年に黒姫山に隣接した青海地区に工場を建設し、カーバイドと石灰窒素の製造とともに石灰石の採掘を始めました。

そこから100年が経過した今、黒姫山の山麓からは、地下をめがけて渦を巻くように掘られた大きな穴が見えます。ここには、100年にもわたって続いてきた石灰石採掘の歴史が深く刻まれています。

時代とともに 進化し続けた採掘

「デンカの石灰石採掘は、時代とともに進化を続けてきました」と振り返るのは、青海工場 資源部の川田部長。青海工場操業開始当時は火薬も重機もなかったため、山から落ちてきた石灰石を手で拾い、それをトロッコに積んで運ぶ「手積み式」で石灰石を収集していたそうです。1946年からは、より多くの石灰石を集めるために安全ロープを腰に巻いて斜面に立ち入り、爆薬を使用して上から爆落させた石灰石を拾う「傾斜面採掘法」を開始。1950年にはカーバイドの需要増加に伴い「グロリーホール法」を採用。これは漏斗状に掘った穴の中心に運搬用のトロッコへつながる縦穴(縦型の細いトンネル)を掘っておく事前工事を行い、砕いた石灰石を縦穴に落とし込むことで手集みの能力不足を解消させるものでした。1963年から始まった「階段採掘法」は階段状の斜面を残しながら水平層状に掘り下がる採掘法で、ホイールローダーやシャベルで縦穴に運搬する手法。これは、現在の採掘のベースとなっています。

創業当時の採掘の様子



試行錯誤を重ねて

こうした採掘方法の進化が進む中で、一番の課題となっていたのは冬季の積雪です。黒姫山は数ある石灰石の採掘場の中でも豪雪地帯に位置し、採掘条件が厳しいことで知られています。増産体制の確保と全天候型採掘への展開が求められていた1968年当時、気候の影響が少ない坑内採掘に約4年間挑戦したこともありましたが、現在では、高性能の除雪車を運用し、昔に比べて採掘場に到達できる時間が格段に短くなりました。

効率のよい採掘を行うため、多くの設備をそろえていることも青海工場の強みです。冬季に活躍する除雪車に加え、発破孔を掘るための穿孔機、石灰石を積み込むためのホイールローダー、90tの鉱石が積める大型ダンプトラックなど、その規格や保有台数は、国内の

鉱山の中でもトップクラスと言えます。

また、石灰石の品質確保にもこだわり続けてきました。カーバイド製造には、純度の高い良質な石灰石が必要です。そこで、採掘場内において5m間隔でサンプルを採取して純度を確認し、縦穴に投入する前に仕分けています。こうした工夫によって高純度の石灰石を効率よく供給することができ、カーバイドの安定操業につながっています。

デンカは今日に至るまで、自然と向き合い、ときには苦勞しながら最適な採掘方法を追い求めてきました。この挑戦の繰り返しこそが、デンカと黒姫山の歴史であり、デンカの豊かな製品群の創出につながっていると言っても過言ではありません。



カーバイド用石灰石の構内運搬には、デンカ専用のディーゼル機関車が使用されています。工場近隣の公道から運行の様子を見られることから、往來を待ち構えている鉄道ファンがいるとのこと。



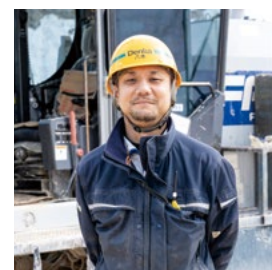


これからも、 デンカは黒姫山とともに

デンカは2025年上期にセメント製造事業から撤退し、黒姫山からの石灰石の自主採掘も終了します。今後は、同じ糸魚川市内でセメント事業を展開する明星セメントからカーバイド用の石灰石を購入し、その石灰石を精鉱処理してカーバイドの製造に充てます。川田部長は「石灰石を安定して精鉱していくためには、設備の維持管理が重要。その健全化に努めていくことが、これからの私たちの役目です」と展望を語ります。また、100年をかけて採掘してきた跡地については植林による緑化が予定されています。それは、これまで山の恵みをいただいていたデンカが取り組まなければいけない、もう一つの使命でもあります。

「黒姫山は、この地域にとって、そしてデンカにとっても欠かせない存在」と青海工場に勤める社員は口をそろえて言います。デンカと黒姫山の歴史は、石灰石の自主採掘という形では一度区切りを迎えることになりますが、ここまで築き上げてきたものが変わることはありません。これまでも、これからも、デンカは黒姫山とともに歩み続けていきます。

たくさんのものを 与えてくれた黒姫山



八木さん



樋口さん

黒姫山は、デンカの事業のみならず、そこで働く従業員にとっても特別な存在です。糸魚川市で生まれ育ち、資源課の採掘係に所属している八木作業長は、入社以来、採掘ひと筋。重機を自由自在に操り、爆薬の装填や、発破後の石灰石の運搬もできる多能工です。実は八木さん、親子二代で青海工場に勤務。「父も私も資源課の採掘係で、黒姫山で採掘に関わる仕事をしていました。広く社会に役立つ資源を自分たちの手で掘り出すことにやりがいを感じます」と黒姫山との縁を語ります。

八木さんの他にも、これまで青海工場で働いている従業員の多くは、ここ糸魚川の地で生まれ、黒姫山を仰ぎ見て育ってきました。精鉱係を担う樋口作業長もその一人です。精鉱とは、採掘場で集めた石灰石を破碎してふるいにかけ、洗浄した後に工場に送る工程のこと。樋口さんは精鉱に必要な設備のオペレーションと保守保全を行っています。この道30年となる樋口さんは、黒姫山についてこう語ります。「小さい頃から黒姫山から石灰石が採れることは知っていましたが、それが世界で活用される製品

の原料となることは、デンカに入社して初めて知りました。そうした製品に自分が関わっていると思うと、黒姫山や石灰石に愛着が湧いてきます。」黒姫山の存在は、そうした地元の方々の雇用創出や、デンカ社員の働くやりがいにも深く影響してきたのです。

他にも、資源部では年に2回、春と秋に安全祈願祭を実施しています。工場幹部や関係部門も出席し、無事故無災害を祈ります。黒姫山は、地域住民の皆さんだけでなく、青海工場とそこで働く方々を見守る「守り神」でもあるのです。





キャリア社員座談会

デンカ、ここがスゴくて、ここがヘン？

キャリア入社してデンカで活躍する皆さんに、社外で経験を積んだからこそ見える、デンカの特徴について語り合っていました。

フラットでつながりのある人間関係

藤本 まずは転職先にデンカを選んだ理由を教えてください。

中野 研究開発の上流に興味があり、原材料でブランド力を持つ企業を探してデンカにたどり着きました。アセチレンブラックは想像以上に競争が激しい環境にありますが、EV向けで成長性が見込まれ、また製品で差別化ができています。研究開発部門と連携してかに勝ち抜いていくか、挑戦の毎日です。

原田 私も、タイヤ開発を通じて、性能を大きく左右する上流の素材に興味を持ちました。デンカにいる知人から、ライフワークバランスなど働き方の話を聞いて、自分に向いていると感じました。上司や他部門など、タテ・ヨコのつながりが密接で仕事しやすいです。

廣瀬 お二人と同様、やりたい仕事に挑戦できそうだなと思ったこととワークライフバランスから転職を決意しました。前職はMRでしたが、研究開発への興味は学生時代からあり、また、現在の製品開発の種を見つけるマーケティングの仕事もとても

興味がある内容で、毎日楽しく仕事に従事できています。診断薬という新しい世界で日々学びを得ています。

藤巻 私は総務人事の仕事をしていて、業界的なこだわりは特になかったのですが、「一生の仕事にできるかどうか」は意識していました。化学業界とは全く馴染みがありませんでしたが、会社の事業が社会貢献につながっていることを実感できるのが魅力です。

藤本 入社して、部署や社内の雰囲気はどうですか？

中野 同じアセチレンブラックを製造する



ファシリテーター

人財戦略部 部長
ふじもと じゅんじ
藤本 順史



パネリスト

千葉工場
高分子研究部
新製品開発 G
はらだ ひろき
原田 大輝

2023年入社。前職はタイヤメーカーでトラック・バス用タイヤの開発・設計業務を担当。現在は千葉工場で、低誘電有機絶縁樹脂「スネクトン」の低分子量品の配合処方検討を手掛ける。



イノベーションセンター
ライフイノベーション部門
診断薬研究部
ひろせ れいな
廣瀬 滯奈

2023年入社。前職は医薬品業界でMR(医薬情報担当者)として自社医薬品の情報提供業務に携わる。入社後は、心疾患に関するPOCTの研究開発を経て、現在は新規バイオマーカー候補選定のマーケティングを担当。



人財戦略部
ふじまき ひろや
藤巻 浩也

2022年入社。前職は遊技メーカーで総務人事などバックオフィスを担当。入社後は新卒採用業務などを経て、今年4月より労務管理の担当に。



電子・先端
プロダクツ部門
特殊導電材料部
課長
なかの ゆうこ
中野 裕子

2022年入社。前職は通信業界で、デバイスやモジュールの予算策定、予実管理、新規および既存顧客への拡販業務に携わる。現在はアセチレンブラックの営業全般をリードしている。

工場でもそれぞれ文化の違いを感じます。特に千葉工場は、変化の早いリチウムイオンバッテリー向けということもありスピード感があります。また、今後稼働するタイの工場とどうコミュニケーションをとっていくか。まずは、関係構築から始めます。

原田 千葉工場は、職種に関係なく誰もがフランクに話しているのは良い風土だなと思いました。そこから課題解決力や対応の速さが生まれてくるのだと思います。

廣瀬 イノベーションセンターも雰囲気が良いです。思ったよりも飲みニケーションが活発で、有志でつくる「日本酒の会」などもあって楽しいです。

藤巻 他部署の方に相談に何うと、皆さん、必ず作業している手を止めて向き合ってくれますね。これはデンカのとても良い文化だと感じています。上下左右のつながりをつくりやすい環境は魅力的です。間接部門では顧客として社外の方と接する機会も多くありますが、そういった場面でコンプライアンス徹底や共存共栄の考え方も感じます。

DXは避けて通れない課題

藤本 企業風土を評価する意見が多いですが、ここ2年くらいは業績面での苦戦も続いており、みんな「このままじゃダメだ」と思っているはず。デンカが成長していくために変えたほうがいいと思うことはありますか？

廣瀬 会社の知名度向上にもっと意欲的

になるべきだと思います。自社の製品が広く社会に貢献している実感にもつながります。もう一つは、開発が長期にわたる医薬品だからこそ開発テーマの事業化の可否を判断するスピード感も大切です。

中野 事業のスピード感は重要ですね。技術力が高いのに、スピードで競り負けてしまっはもったいない。あとは、KPIなど目標管理の徹底や、マニュアルの整備などの基礎固めをしっかり行っていければと思います。

原田 まだまだ紙の書類が多くてDX化も必須ですね。

藤巻 「システムのせい」という言い訳にしないためにも、やはりDXは加速させていかないといけないですね。それと、業績が厳しい中で、今まで以上に業務を自分ごととして捉えて向き合う必要があると感じています。直接的な売上が見込めない間接部門だからこそ、コスト意識を持ってベストプラクティスに取り組み、広げていきたいと思っています。

業績回復とその先に向かって

藤本 デンカの一員としての意気込みを聞かせてください。

廣瀬 営業と研究開発の架け橋になる今の仕事は、MRの時の経験が活かしていると実感します。新事業探索部とも連携し

つつ、現場のニーズを引き出し、次の製品の種を見つけていきます。その先としては、自分たちが開発・販売する製品を海外に展開していく仕事にもチャレンジしてみたいですね。

原田 仕事と生活の両立を追求していくことは長期にわたるテーマです。その実現のためには安定的な収入が欠かせません。スネクトンの製品ラインナップを市場に広く普及させることで、会社の業績向上に貢献していきます。

中野 販売・売上・利益の回復は最優先ですね。大事なのは成功体験。まずは課の中で一つ成功事例ができれば、そこからいろいろと動き出すのではないかと期待しています。同時に課長の立場としては次世代のメンバーを育てていくこと、母親の立場としては、女性社員が管理職と子育てを両立できるような環境づくりに取り組みたいです。

藤巻 周囲から「あのデンカに勤めているんだ」と一目置かれるような会社になりたいです。将来、どのようなポジションに就くかはわかりませんが、どんな状況においても、全体最適を大切に、自分と周囲、双方の成長を促せる存在でありたいと思います。

藤本 デンカの従業員に占めるキャリア社員の割合は約3割にまで達しています。一人ひとりがそれぞれの経験を活かして、これからのデンカを一緒につくっていきましょう！

一度は来てみて！ My Favorite Place & Gourmet 拠点の魅力自慢

日本だけでなく、世界に拠点を有するデンカ。
各拠点の社員の皆さんから、デンカがある街のおすすめスポットやグルメをお聞きました！



東京都
町田市

イノベーション
センター

お気に入りの
ご当地キャラが
見つかるかも!?

地元のPR大使！ 町田プロレス

町田プロレスは「プロレスの力で町田市をPRしたい・盛り上げたい・元気になりたい!」との想いから誕生した地域密着まち元気プロレス団体です。主要なレスラーは町田市ゆかりの覆面を使用しており、「ゆるキャラ」「ご当地のPRキャラクター」としても活躍しています。特産品由来の「シルクメロン侍」さんや、町田リス園由来の「町田リスっち」さんなど、町田の魅力とプロレスを同時に楽しめます。

ライフイノベーション部門 診断薬研究部
き が ら じ ゅ ん い ち
佐伽羅 純一さん



新潟県
五泉市

五泉事業所



五泉のソウルフード！ 「とりかん」の半身揚げ

五泉事業所の所在地である新潟県五泉市にある鶏料理屋さん。このお店の「鶏の半身揚げ」は、カレー風味の皮はパリパリで、中はジューシー！五泉市のソウルフードといっても過言ではないほど、五泉市民に愛されています。

鏡田工場 臨床試薬製造部 臨床試薬製造課
まえかわ まさむ
前川 将夢さん

群馬県
渋川市

渋川工場



野菜本来の味を
活かすからー

素材の味が引き立つ 「春乃屋」さんのドレッシング

渋川市は、「伊香保温泉」や「水澤うどん」が有名ですが、これらのドレッシングも負けてはいません。「にんじん」と「新玉ねぎ」といった野菜本来の味を際立たせる味わいで、一時はなかなか手に入らなかったことも……。最近は、近隣の野菜産直所や、ネットでも購入できますので、皆さんぜひ買ってみてください！

管理部長 しらいわ ひであき
白岩 秀明さん

神奈川県
鎌倉市

大船工場

知られざる
穴場スポット!



江ノ島と絶景が展望できる 稲村ヶ崎公園

鎌倉から国道134号線を走っていると現れる稲村ヶ崎。ここはかながわ景勝50選に選ばれる絶景スポット。海に浮かぶ江ノ島と夕日のオレンジとの共演に魅了され、思わず足が止まってしまう。鎌倉駅から離れていて、海水浴場ではないため訪れる人が割と少ないので、穴場のスポットでもあります。

管理部管理課 はつく たかし
波津久 貴さん

群馬県
伊勢崎市

伊勢崎工場

伊勢崎市民が
誇る
世界遺産!



ダイナミックな
富士山が
お出迎え!

千葉県
市原市

千葉工場

山がないからよく見える? 富士山ビュースポット

千葉県は富士山の絶景スポットが随所にあり、中でも富津市以南の国道127号沿いからは、裾野まで広がる富士山の美しさに目を奪われます。また、工場の近くを通る小湊鉄道は、房総の東西を結ぶいすみ鉄道とつながっています。この二大ローカル線の沿線は、春になると桜と菜の花が咲き誇り、乗る人、撮る人、通る人を楽しませてくれます。

第二製造部 機能性シート課 あんざい まこと
安西 誠さん

福岡県
大牟田市

大牟田工場

縁結びならココ! 恋木神社

大牟田工場から車で約30分のところがあり、縁結びで有名な神社です。境内にはハートがちりばめられ、一般の神社とは一風変わっており見応えがあります。この神社で特におすすめしたいのがおみくじです。何座の人が相性が良いのか、待ち合わせの場所はどこが良いかまでも具体的に教えてくれて面白いです。しかも、この神社は学問の神様を祀る水田天満宮の境内にあり、一緒にお参りすることができます。

事務部 経理課 まなか ゆきえ
間中 由紀恵さん



世界遺産に認定された 田島弥平旧宅

田島弥平旧宅は、2014年6月25日に「富岡製糸場と絹産業遺産群」の構成資産の一つとして世界遺産に登録されました。伊勢崎工場と太田工場の間に位置し、私たち伊勢崎市民にとっての誇りです。現在も人が住んでいますので、一般の方は内部見学はできませんが、日曜日に公開されることもあるようです。

管理部 管理課 ほし みゆう いしかか もも
星 心優さん(左)、石岡 桃さん(右)

新潟県
糸魚川市

青海工場



糸魚川の
新スポット!



つくる・つながる・はぐくむ 糸魚川市駅北広場キターレ

糸魚川は、海水浴やスキー、甘エビ・カニなど四季折々の豊富な食や体験スポットが集まる魅力的な場所です。2016年の糸魚川駅北大火の跡地にできた「キターレ」では、大火の記録展示のほかシェアキッチンがあり、曜日ごとにカフェなどの異なるお店の魅力を楽しめます！ホールや屋外広場でのイベントもありますので、ぜひ訪れてみてはいかがでしょうか？

総務部 総務課 おがわ あやめ
小川 彩芽さん

シンガポール

DCHA

グルメ好きの楽園

ジュロンイースト

シンガポール西部に位置するジュロンイーストは、おいしい料理が集まる活気あふれるエリア。チキンライスやラクサといった地元料理から、寿司や韓国料理などの国際的なグルメまでバラエティ豊か。シンガポールの多文化的な魅力を感じられます。さらに、近代的なショッピングモールや娯楽施設、公園もあり、都会の便利さとリラックスできる空間が調和しています。

DCHA シャロンプー Chia Min さん

ドイツ

DCG

トリュフパスタ
with カルパッチョ!
ハマル味!

歴史ある市場

カールスプラッツ・マーケット

カールスプラッツ・マーケット (Carlsplatz Market) はデュッセルドルフの Altstadt (旧市街) の南に位置する市内で最も歴史のあるマーケット。生花店から精肉店、カフェやベーカリー、レストランが並んでおり、様々な買い物や食を楽しめます。特に家族で気に入っているのが、イタリアンのお店が出しているトリュフパスタ with カルパッチョ。カロリーが気になりますが、一度食べたならハマります!

DCG こやま ゆういちろう 小山 侑一郎さん

韓国

DCK

ゴルフ好きにはたまらない

スクリーンゴルフ場

ゴルフ場でのラウンドはちょっとした贅沢で、頻繁に行けるものではありません。そこで、おすすめなのが韓国にある「スクリーンゴルフ」。室内でありながら、実際にゴルフ場にいるかのように楽しめる施設です。ゴルフはもちろん、ビール、スナック、チキンのような食べ物も注文することも大きな魅力。安い費用と短い時間で、楽しい思い出をつくることができます!

DCK きん セファ 金 世和さん

外はカリカリ、中はふわふわ

アパムバリック

私のおすすめは、マレーシアの屋台やフードコートでどこでも見かけるストリートフード「アパムバリック」。パンケーキのようなもので、とろけたチーズと具材の相性は抜群。外側はカリカリで、中は柔らかく、マレーシアに来たらぜひ食べてほしい食べ物の一つです。2018年2月にマレーシア中部の代表的な都市イポーで創業した「Apam Balik Kuhot」というお店がおすすめです。

DCSM Sales Department Regional Manager
Edmund Fong さん

DCSM

マレーシア

グルメ好きの楽園

龍華寺の素麺

上海にある龍華寺は1700年以上の歴史があり、江南地区で最も古い寺院の一つとして知られています。毎年新年に、家族の無事を祈り、健康と幸福を願うために大勢の人が訪れます。龍華寺のおすすめは素麺。その香りと味わいが広く愛されています。特製の素高湯と数種類のきのこや野菜、豆製品を使ったこの料理は、シンプルながらも深い味わいがあります。

DCS プーミンファ 濮敏華さん

DCS

中国(上海)

文化歴史記念物
にも指定!

歴史あふれるベトナムの仏塔

ノムパゴダ

ノムパゴダはフンイエンのノム村遺跡群にある古代のパゴダ(仏塔)です。東南アジアで最も大きく美しいとされる三門を含む、ユニークな古代建築が特徴です。パゴダ内部には、テラコッタで作られた100体以上の古代の粘土像があり、その多くは銅で鑄造されています。これらの彫像は、歴史的・文化的価値のある芸術作品であり、古代の職人たちの創意工夫と洗練された技巧が見られます。

DAV ド ティ トウ ハン Do Thi Thu Hang さん

DAV

ベトナム

DCU

アメリカ(NY)

DCU オフィスのすぐ近く!

世界の中核 国連本部

ニューヨークと言えば国連本部! DCU オフィスのすぐ近くにあり、報道でもおなじみの国連総会の会議場などを見学できるツアーがあり、料金は大人26ドル(2025年2月現在)で、申し込みは日本語ガイドのツアーにも参加できます。世界各国の国連職員の住居や大使館が近くに点在しているため、各国の本格的な料理を提供するレストランも多く、食べ歩きも楽しいエリアです。

DCU さくの わたる 佐久野 渉さん

2025年の私たちと、一人ひとりが描くデンカの未来

デンカが創業110周年を迎えた今、改めて私たちの現在地を振り返るとともに、それぞれが目指す姿について、デンカグループで働く国内外の従業員38名に語っていただきました。

常に最適な調達ができる
専門家へ

DAV 購買課（ベトナム）
ダン クイン チャン
Đặng Quỳnh Trang さん

調達担当である私の役割は、必要な品目に対して適切な数量を確保するとともに、品質基準を満たし、競争力のあるコストで調達を実現すること。深い知識と経験を備え、最適なコストで高品質な商品を調達することで、デンカの競争力向上と持続可能な成長を支えています。そうすることで、グローバルに発展し、先端的な業界をリードするデンカになることを期待しています。



DCSM テクニカル部門
テクニカルマネージャー
（マレーシア）
シュ ハダ
Nursyuhada Idayu Binti
ダー ラン
Dahalan さん

グリーンビルディング
開発に貢献する

品質保証・管理を担う私の目標は、デンカのグリーンビルディング開発に貢献することです。グリーンビルディングとは地球環境に配慮した建物のことで、マレーシア市場ではあまり知られていません。環境に配慮した高品質な建材を世に送り出し、デンカを持続可能な社会に貢献する企業としてアピールします。そして業界のトップメーカーとなることを願っています。

プロセス最適化から、
より強いデンカをつくる

DAPL トラス工場 Process Engineer from Production department（シンガポール）
ホー シェン ハー
Hoe Shen Harg さん（右）
オン レ ワン
Ong Le Wan さん（左）

私たちはプロセスエンジニアとして、社内のプロセス最適化を目指しており、高度なデータ分析や自動化などを用いて仕事の効率化を最大化することに注力しています。材料と化学の分野において、デンカはこれからもリーダーシップを発揮する企業です。そこで、生産性の向上を推進し、運用コストの削減や、持続可能な職場づくりに貢献していきます。



デンカエラストリューション
技術開発部 技術開発課
おざわ たいき
小澤 太基さん

安全を担う
高品質製品を、
安価で提供する

自動車をはじめ様々な製品に使用されるLiBは、現在発火事故が社会問題となっています。LiB用の延焼防止材の開発に取り組む私は、加工条件の最適化から生産効率の向上を図り、高品質かつ低コストの生産体制を確立します。そして、他社に追従を許さない技術力と会社全体の収益の向上に貢献していきます。

スペシャリストを志し、
学び続ける

デンカエンジニアリング
粉体プロセス部
ティンザー・ミン・ウさん（左）
FY プロジェクト
エー・ミヤツ・モンさん（右）

現在はプラント内の機械や装置のCAD設計を学んでいます。そんな私たちが目指すのは、深い知識と専門性を持ちながら、あらゆる課題に挑戦し、責任を持って取り組む人物です。業界の変化や最新の技術革新に対応するために継続的に学び続け、将来的にはプロジェクトを統括し、全責任を持つスペシャリストを目指したいです。



デンカポリマー 技術開発部
技術課
しのだ ありさ
篠田 愛里彩さん

新たな製品を導く、
架け橋になる

プラスチック製食品容器の開発において、お客様の要望を聞く営業と、製品を生産する工場の架け橋になるのが私の役割です。目指す姿は、専門的な知識を深めるための努力を惜しまず、問題解決能力に長け、リーダーシップをもって行動できる人。営業や製造を巻き込みながら、自身の研鑽も重ねることで、会社とともに成長していきたいです。

健康的で
持続可能な未来を

私が最も力を入れているのは、ヘルスケア分野における収益性の高い新規事業の開発推進です。これらは診断薬や試薬の製造・販売というデンカの専門性と戦略的に合致し、デンカに新たなチャンスをもたらすものです。デンカがワンチームとなり、お客様の生活の質を向上させる価値ある製品を開発し続けます。



DCU（アメリカ）
PhD Manager New Business Development, Life Innovation Division
サム アリ
Sam Ali さん

格物致知な
スペシャリストに

ライフイノベーション部門
POCT 部 POCT 学術課
さわた まや
澤田 真弥さん

「格物致知」。この言葉のように、物事を深く探求し、経験や得た知識を広げる大切さを示す人が私のスペシャリスト像です。POCT製品の市場構築につながる情報提供、感染症領域を主軸とした顧客ニーズの掘り起こしなど、あらゆる環境の変化に対してフレキシブルに対応し続けていきます。そして、この先もニーズを見据え、広く社会に貢献し続ける存在を目指していきます。

常にシステムを
最適化し、
業務効率化につなげる



YK アクロス システム推進室
めざき りな
目崎 里奈さん

課題を的確に捉えて改善を続け、より良いものを目指して行動できる人材。それが私の目指す姿です。システム推進室では、システムに関する問い合わせが日常的に発生します。そこから解決すべき問題を見つけ出し、改善に取り組むことで、社内の業務の効率化やモチベーション向上につなげていきます。グループを横断した交流も増やし、ノウハウの共有も行っています。

売上とお客様満足度を両立
する営業へ

環境・アグリプロダクツ部
たかやま しほ
高山 純穂さん

スマート農業を目指す新規開発とコルゲート関係の営業を担っています。私が描くプロフェッショナル像は2つあります。一つは、顧客との信頼関係を築き、深い市場理解と提案力を持つこと。もう一つが、「会社への貢献」です。この実現を通じて、売上の拡大と顧客満足度の向上に貢献し、会社の成長を支える存在になりたいと思います。

「デンカブランド」を
医療業界で確立する



関越メディカル支店 営業二課
つかの まさお
塚野 温生さん

私はインフルエンザワクチンと検査試薬の2つの営業活動ができるマルチプレイヤーを目指しています。ワクチンの販売本数を伸ばし、かつ接種率を向上させることで、「インフルエンザ・感染症」と言えば「デンカ」と呼ばれるよう、医療業界でのブランド力強化に貢献します。また、デンカで働く社員が「この会社が好きだ」と誇れる会社へと変革していきたいと思います。

お客様の心に入り込む
営業活動を展開する

デンカ韓国 営業課長
イ ギョク
李 基碩さん

韓国で蛍光体の営業を担当しています。当社製品を採用していただくために必要なことは、お客様との関係性。彼らを理解し、共感する姿勢は、信頼を築くためにとても重要です。あらゆる分野のお客様の心に入り込み、ニーズを聞き出すことで、デンカ製品の拡販につなげていきます。

誰にも負けない自信と行動力
を持つ

イノベーションセンター
機能性セラミックス研究部
しのはら こういち
篠原 功一さん

私の業務は、水素社会の実現に貢献するための触媒開発と、水素貯蔵材料として期待される水素抽出触媒の開発検討です。このプロジェクトを円滑に進めるためにも、常に行動力を持ち、「あの人に聞けば」と頼られる存在を目指します。突出した特徴を有し、その分野で誰にも負けない自信を持つ人。それが私の目指すスペシャリストです。

新たな
水道インフラを
構築する



デンカアステック
新事業推進部
おおの せいじ
大野 聖治さん

日常生活に欠かすことのできない水は、異常気象による洪水や渇水、水道インフラの老朽化により日本でも当たり前にあるものではなくなっています。全ての源水である雨水を生活用途に合わせて適正浄化し、国の定めた水質基準をクリアする雨水利用管理システムを構築することが私の使命です。環境に配慮した新事業製品の開発を通じて、目指す社会を実現していきます。

仲間の力を引き出す
製造マンを目指して

デンカアズミン
製造・開発課
ほそや かずゆき
細谷 和行さん

私が目指すのは、生産現場を幅広く支えられる人間です。コミュニケーションをとり、各従業員のスキルに最適な役割を割り当てることで最大限に能力を発揮させる製造マンになりたいと思います。そして、価値ある製品の供給を通して、全世界に名前が知れわたるような企業になることを期待しています。

効率よく、
安全に働ける
環境を提供する



九州プラスチック工業
エンジニアリング部
もとだ なおや
元田 植也さん

会社のインフラや設備を取り扱う私たちに求められるのは、問題を解決できる能力とイノベーションを起こせる人材であること。生産ラインでのトラブルを未然に防ぎ、新しい製品設備や技術を開発することで、安全操業による生産の安定化を図ります。他社も含めて新しい技術やアイデアを取り入れ、一人ひとりが自分の仕事に挑戦できる、働きがいのある企業を目指します。

仕組みづくりから、
会社の成長につなげる

五泉事業所
新潟工場
ワクチン部 技術課
ひだよしふみ
肥田 祥史さん

私の目指すスペシャリスト像は「仕組みを作る人」です。新たな価値を創造していくことも重要ですが、効率的で生産性の高い仕組みを作ることこそが会社の成長につながります。現在は、インフルエンザワクチン製造に重要な一製品の作製に携わっています。これを実現することで、デンカを業界における中核企業として、予防治療を牽引するような企業になればと思います。

110年の経験から
価値ある製品を
届ける



札幌支店 特殊混和材課
やまぎし しょうへい
山岸 洋平さん

会社の成長とより良い職場環境構築のため①世の中の誰かのためになる価値を生み出すことに挑戦 ②知識や技術、能力、経験を最大限に活用し、成果を上げる! ③明るくポジティブに、協力し合えるチームをつくり上げる!を信条に、業務に邁進していきます。デンカは110年の経験を活かして、これからも新たな価値を創造し続ける会社であることを願います。

自身のスキルを高め、デンカの競争力向上につなげる



洪川工場
第一製造部
ハードロック課
ハードロック係
すずきしゅんすけ
鈴木 俊介さん

製造現場の設備改善、品質改善、業務効率化を担当しています。私が目指すのは、最新の技術動向を把握し、自己研鑽を通じて業務の効率化と品質向上に寄与するプロフェッショナル。これを実現し、付加価値の高い業務に集中できる環境をつくることで、デンカの競争力向上に貢献します。そして、今後も技術革新と持続可能な成長を追求し、誇りを持てる企業であることを願います。



ポリマーソリューション部門
樹脂加工研究部（大船工場）
いのうえ ゆうき
井上 雄貴さん

生活の質を高める
製品を生み出す

新規事業の開発やソリューション確立の第一歩は、たくさんアイデアを出すこと。アフリカ系女性向け頭髮製品用繊維の生産技術確立に取り組んでいる今、社外の知識も積極的に取り入れて開発を行い、お客様の生活の質を向上させる製品を社会に提供していきます。そして、この先も社会に必要な不可欠な素材を供給し、必要とされ続ける企業であってほしいと思います。

デンカ製品の拡販から、気候変動に立ち向かう



電化（上海）
管理有限公司
うちだ ゆうた
内田 祐太さん

バイオスティミュラント(BS)製品の拡販を目指し、販売代理店への浸透と関係構築に努めています。気候変動による農作物の環境ストレスへの対応が求められる中、BSの需要は世界的に増加しています。当社のBSは競合製品より効果が高いことが多くの実証試験で確認されており、この優位性を世界の農業市場に広げ、デンカのブランド価値を高めます。



伊勢崎工場
第二製造部 シート課 技術係
たかはしりょうすけ
高橋 諒丞さん

三現主義の製品開発で
他社の追従を許さない

私は今、カーボンブラックの分散性向上と樹脂の劣化抑制を両立するため、新たな混練技術の確立に挑戦しています。心掛けているのは、現場・現物・現実からなる「三現主義」。これを製品開発に反映し、他社の追従を許さない高品質な製品開発を進めます。そして、デンカを、さらなる製造品質管理体制を築ける化学メーカーへと導きます。

一つずつ成長し、新たな価値を創造する



大牟田工場
セラミックス研究部
いわもと ゆうき
岩本 有生さん

私は「仕事に対して様々な変化を見抜き、新しい価値を創造する人」を目指しています。現在は、高速通信用電子デバイス向けに期待される、AIN粉の開発に注力しています。まずはスキルを習得し、その上で更なるレベルアップに励みたいと思っています。そして、この先も世界で活躍するデンカの一員として貢献していきたいです。



経営企画部
いけだ ひな
池田 陽菜さん

オールラウンダーかつ
スペシャリストに

私が思うスペシャリストとは「全てこなすことができるが、特定の分野でも輝きを放つ人」。経営企画部に所属してからこれまで、ポートフォリオ変革などをはじめとするプロジェクトに多く携わらせていただきました。この経験を活かして、プロジェクト遂行のスペシャリストとなり、現在Mission 2030で掲げている「3つ星事業100%達成」に向けて貢献していきたいと思います。

「お客様のために何ができるか」を考え続ける



東京メディカル支店
まちだ かつふみ
町田 雄史さん

近年、医療業界や当社を取り巻く環境は大きく変化しています。そこで求められるのは、問題解決能力があり、持続的な成長ができる人です。私は当社の強みを生かして、お客様に何ができるか考え続け、それを形にすることを大切にしています。そして、当社の製品を通じて社員一人ひとりが社会に貢献できていると実感できるような会社を目指していきます。

デンカの魅力を最大限に引き出したい



特殊導電材料部
かねやま あ
兼山 智雅さん

現在は欧州企業にデンカブラックの営業活動を行う中で、新たに設立したタイ工場の認定に向け、顧客との交渉に注力しています。デンカの貴重なリソースを上手く顧客にアウトプットするためには、知識の習得や社内コミュニケーションの強化に、社内状況を把握することも大事です。社内ネットワークをより広げ、デンカの魅力を上手く引き出せるよう努めています。

経験を基盤に、
成長を追求し続ける
プロフェッショナルに



日之出化学工業
技術課 設備係 係長
おおつき おさむ
大槻 修さん

新規設備の設計・設置・立ち上げおよび既存設備の保全・改善を担当しています。私が目指すのは特定の分野において深い経験や技術を持ちながらも、新しい知識を吸収し、成長意欲のある人物です。今の業務を行う上でも、古い慣習にとらわれず、柔軟な発想による原理原則を基本にした問題解決とアイデアの創出を目指していきます。

リサイクルの枠組みをつくり、循環型社会を実現する



東洋スチレン
研究所 基礎研究室
なかむら こうすけ
中村 亘佑さん

ポリスチレンの資源循環の実証検討に携わっています。これが実証できれば、特に食品容器用途においてリサイクルが可能なプラスチック材料として、ポリスチレンに新たな付加価値（環境価値）を提供できるようになります。今後デンカがプラスチックの資源循環の分野においてもトップを走るため、技術確立とともに、社外と連携した取り組みも行っていきたいです。

知識を積み上げ、
信頼される営業マンに



DCG
デンカケミカルズ（ドイツ）
ふるかわしゅんすけ
古川 竣介さん

放熱対策製品の営業を担当しています。お客様との間には様々な課題がある一方で、丁寧なコミュニケーションが大切だと感じています。深い信頼関係を築いていくためにも、情報収集に注力して、お客様にとって頼れる存在になることを目指します。デンカの生き生きとした取り組みが、社会の元氣につながるような、そんな会社を目指せると、これ以上うれしいことはありません。

会社の成長と、より良い職場環境のために



千葉工場
第三製造部有機電材課
たかの さおり
高野 沙織さん

千葉工場に新設中のスネクトンプラントにおいて、新しいシステムを構築し、業務の標準化・効率化や、お客様への迅速な対応の実現を目指しています。目の前の課題や人に対して真摯に向き合い、問題解決のために粘り強く取り組むことのできる技術者になりたいです。デンカが健康で安全に働き続けることのできる職場であるよう、私も尽力し続けます。

「デンカなら安心」と社会から信頼される存在に



福岡メディカル支店
ひらいりょう
平出 稜さん

インフルエンザHAワクチン販売活動に携わる中で、予防接種の重要性の啓発、試薬を使用した早期診断から早期治療により、患者様のQOL向上に貢献できていることを実感しています。医療関係者から「デンカなら安心だ」と信頼いただいているため、製品に携わる一人として、デンカが社会に必要な不可欠な存在となれるように業務に励んでいます。



福岡支店
環境・アグリプロダクツ課
たてばやし かずひさ
館林 一壽さん

経験と知識を
積み重ね、
新たな価値を
生み出す

高密度ポリエチレン製排水官「トヨドレン」の営業を担当し、デンカのシェア拡大に力を注いでいます。そんな私が目指すのは、経験と知識を信頼に変える人。単に知識や経験があるだけでなく、それを活用して新たな価値や方針を生み出せる人になりたいです。そして、共に働く仲間たちや会社へと、幅広く貢献していきたいと思っています。

課題解決のスペシャリストとして組織の成長に貢献



名古屋メディカル営業所
いそがい たかし
磯貝 崇さん

臨床試薬の営業担当として、医療機関用迅速診断キットや検査試薬の販売に従事しています。私はお客様の課題解決こそが採用の近道だと考えます。まずは、私が「課題解決のスペシャリスト」となり、所属営業所の課題発見と解決を実施することで組織の成長に貢献します。さらに、その輪を広げ、多くの課題を解決することで、より良い社会を創るデンカになることを期待します。

未来を担う
カーバイドの
安定供給を目指して



青海工場 無機部 技術課
まつい ゆうき
松井 雄希さん

カーバイド製造プロセスの技術改善、安全保安技術の向上に取り組んでいます。カーバイド事業は未来を担う重要な製品ですが、現在大きな変化の過渡期にあり、これに対応するため、最先端の技術や知識の追求、問題解決力の向上に努めて会社の発展に貢献します。デンカには、すばらしい技術があることを忘れず、最新技術を融合させて持続可能な未来を切り拓いていきます。

ステークホルダーから必要とされる人財に



大阪メディカル支店
いらいし ゆうすけ
白石 裕介さん

ワクチン販売のスペシャリストとして、全てのステークホルダーから必要とされる人材となることが目標です。医療機関や卸先と情報共有を積極的に行い良い関係性を築くとともに、個人の成功体験を部署で共有し、組織全体のスキルアップにつなげていきます。社内では部署や年齢の垣根を超えて、明るい未来のために何ができるのか、一緒に考えていきたいです。

DXから、
デンカの成長に
寄与する



デジタル戦略部
うらの てつぺい
浦野 哲平さん

Mission 2030達成のためのDX戦略としてDXロードマップを策定し、2025年度からはDX推進活動を行います。各部と連携しながらDXをきっかけに意識改革を進めることで、組織全体のデジタル活用を加速させ、持続的な成長と競争力向上の実現を目指していきます。デンカの事業を最先端のデジタル技術とデータを活用することで、より安全で高品質な製品を生み出せる会社になるよう貢献していきます。

1-4

Jan. Apr.

Pick Up

Feb.

第2回 Denka Innovation Day開催！

デンカは、経営計画「Mission 2030」で掲げる、新規事業の創出を目指し、従業員を対象にしたアイデアコンテスト「第2回 Denka Innovation Day」を2月20日に開催しました。

本 コンテストは、デンカの未来を担う新たなビジネスのアイデアを発見し、企業全体のイノベーションを促進することを目的としています。一次審査、二次審査を経て、最終審査に5つの案件が選ばれ、各チームはプレゼンテーションを実施しました。審査基準には、「スペシャリティ」「メガトレンド」「サステナビリティ」の3つの要素との関連性、目新しさ(飛び地感)のあるアイデアが設定され、参加者からは、これらの基準を満たすような革新的なビジネスアイデアが提案されました。

最終審査では、各アイデアの革新性や実現可能性が厳しく審査され、見事上位に輝いた3名の受賞者が選ばれました。



Denka Innovation Dayで上位に輝いた3名の方に、本企画に参加した理由や、そこから学んだことについて伺いました。



1.

新事業開発部門
新事業創出部
あさぬま こうじ
浅沼 宏治さん

昨年度も応募し、悔しい結果に終わった心残り、温めていたテーマが応募要項に合致していたため、「これはやるしかない」と思い応募を決意しました。昨年の審査を通して学んだことを活かしながら、スピード感を持って事業テーマの調査と立案ができました。機会にも恵まれ、関連分野に精通する社内の方や、パートナー候補企業へのインタビューを繰り返し実施でき、実現性が高い提案と良い成績に結びついたと感じています。

本年度は特に、審査を担当して下さった方たちの、事業を見る視点や新事業創出に対する期待に気づくと同時に大きな学びになりました。

会社からの後押しもあるので、今後さらに責任感を持ってテーマ実現に向けて邁進します。



2.

新事業開発部門
知的財産部 課長
ささき たかし
佐々木 崇さん

当社の新事業をさらに加速することに少しでも貢献したいという思いから照井 良典さんと参加しました。また、新規用途を探索する方法の一つに特許情報から探索する手法(IPランドスコープ)があり、これを従業員の皆さんへ発信することで、会社の収益向上に貢献できればという思いもありました。

アイデアを具現化するうえで、社内でディスカッションを重ねるとともに、協業候補の企業と話す機会がありました。そこで新事業を進める上での楽しさ、難しさを直接お聞きすることができ、非常に刺激になり、学ぶことが多かったです。今後の特許情報等から、新規ビジネスを提案することで、当社の新事業の活性化や事業展開に少しでも貢献できればと思います。



3.

新事業開発部門
新価値創造部
さたけ まさみつ
佐竹 正充さん

普段は新事業開発部門で、日常的に新事業のアイデア創出などに携わっていますが、普段検討している案件よりもスケールが大きいアイデアがあったため、Denka Innovation Dayで発表して社内の感触を確かめたいと考えて、応募しました。活動を通じて、お話を伺った社外の方、一緒に最終選考に臨んだ方、多くの関係者の方とつながりができ、世界が広がったことが一番の財産です。「デンカで、新事業創出やオープンイノベーションを推進したい」と思って入社したので、今後も新事業、新製品の創出を目指して、尽力したいと考えています。また、通常業務の枠を超えた、壮大でワクワクするアイデアやテーマを見つけましたら、次回以降もエントリーしたいです。

Jan.

ウェアラブル電子聴診器に関するスタートアップへ出資

デンカは、ペガサス・テック・ベンチャーズと共同で運営するコーポレート・ベンチャー・キャピタルファンドを通じて、ウェアラブル電子聴診器を開発するスタートアップ企業 Aevice Health 社への出資を開始した。同社は、喘息や慢性閉塞性肺疾患など呼吸器疾患の管理方法の改善を目指したデジタルヘルスのパイオニア企業である。今回の出資を通じて、Aevice Health 社の技術とデンカの強みである感染性呼吸器疾患や免疫学に関する技術や知見を融合させ、当社のデジタルヘルスに対する取り組みの深化を図る。



Feb.

低誘電有機絶縁樹脂「スネクトン®」上市

デンカは次世代高速通信(Beyond5G、6G)において、電気信号の損失(伝送損失)を低減させるために素材に要求される電気特性(低誘電率、低誘電正接)を備えた低誘電有機絶縁樹脂(製品名:スネクトン®)を上市した。各種高速通信機器の銅張積層板(CCL)向けでの販売を開始したほか、完全硬化後も軟質性を有するという特性により、フレキシブル銅張積層板(FCCL)や各種層間絶縁材用途での採用検討が進んでおり、PC、スマートフォン、データセンター、携帯電話基地局、ウェアラブル端末、自動車など幅広い分野への展開が期待される。



Mar.

「健康経営優良法人2025 ～ホワイト500～」に3年連続認定

デンカは、経済産業省と日本健康会議が共同で実施する「健康経営優良法人2025(大規模法人部門～ホワイト500～)」に3年連続で認定された。健康経営優良法人としては、4年連続の認定となる。デンカは経営計画「Mission 2030」で掲げるコアバリュー「挑戦」「誠実」「共感」の下、従業員一人ひとりが心身ともに健康でいきいきと働き、自己成長を実感できる会社にしていくことを戦略として掲げ、健康経営の実践に取り組んでいる。



Feb.

社長交代記者会見を開催

2月7日の取締役会決議を受け、同日、今井社長と2025年4月1日付で新社長に就任する石田常務が出席する記者会見を開催(※役職は2025年2月時点)。会見では、今井社長が社長交代の背景やこれまでに注力してきた施策について述べ、その後、石田常務が社長として目指していきたいこととして、短期的には足元の業績を成長軌道に戻すこと、中長期的には、「Mission 2030」をベースに当社の「あるべき姿」を実現していきたいと述べた。最後に「新製品で今後注力していく分野」などについて記者との質疑応答が行われた。



Feb.

CDP2024「気候変動」で「B」、
「水セキュリティ」で「A」の評価を獲得

2月7日に発表されたCDP2024のスコアにおいて、デンカは「気候変動」で「B」、「水セキュリティ」で「A」となる評価を獲得した。CDPは、環境情報開示システムを提供する国際的な非営利団体で、各企業の環境情報開示の透明性や経営の関与等を評価した結果をスコア付けて公表している。デンカは経営計画「Mission 2030」の下、サステナビリティの追求を経営の根幹に位置付けて取り組みを進めており、今後も適切な環境情報の開示に取り組む。



Apr.

創立110周年記念式典および
入社式を開催

4月1日、会社創立110周年記念式典を開催。はじめに、石田社長から創立110年にあたっての挨拶があり、続いて、社長表彰、永年勤続10年、20年、30年、35年の方々の紹介がされ、各事業所にて表彰式が行われた。同日午後は、2025年度入社式を開催。今年度はG職34名、M職51名、計85名の新入社員が入社した。入社式では、石田社長の祝辞の後、事業所ごとに新入社員紹介が行われ、最後に新入社員代表から答辞があり式典を終えた。

